

# アートの窓



香美市立美術館では、書家・沢田明子の展覧会を開催します。

沢田明子（1921年～2011年）は、高知県土佐郡田井村（現土佐町）に生まれ、1歳の頃に母の背に負われて北山を越えて高知市に移って来ました。

晩年に開設した画廊を、『北山』と名付けていることから、このことは沢田にとつて原点と言えるほど大切な出来事であったと言えます。

沢田は、幼い頃より絵や書に興味を持ち、17歳で書

## AKIKO SAWADA 沢田明子展 —命のはなびら— 2月22日(土)～3月23日(日)



▲ヒト  
（館長・都築房子）

県文化賞も受賞しています。県内外で多くの個展を開催するとともに、1997年には高知市に画廊『北山』を開設。自身の作品を定期的に発表してきました。沢田明子は、写真の作品『ヒト』について、「ヒトは誰でも喜怒哀楽を持つ。自分は若い時は「怒」と「哀」であったが、晩年は「喜」と「楽」に生きていく」と書いています。子どものように天真爛漫に書かれた『ヒト』の字は、本当に楽しそうに見えます。「今書かねば何時書ける」この作者の言葉のように、最後まで命の炎を燃やして制作し続けてきた作品は、はなやかに力強いものがあります。書家・沢田明子が、その生涯を通して築き上げた書の世界を、多くの方にぜひ、ご覧いただきたいと思えます。

## 香美市文芸 風の流

◆一般投稿作品◆ 広報委員会 選

七色のさだかにありてしぐれ虹  
霜月の朝の大きに触れており  
思ふべく紅蜜柑植え赤く染む  
秋日濃しひとり屋根塗る若者に  
一面の銀杏落葉にほうき買う  
地下足袋を隠してしまふ牡丹雪  
人の忌の巡れば愛し返り花  
土佐路にも北山遠く今朝の雪  
柚酔しほりチュウハイ用とて籠で漣す  
酒もよし歌もまたよし年始め  
松手入れ枝燃やし足し火の粉舞う  
寒に入る準備運動床の中  
終活の庭に散り敷く枯葉かな  
段毎に掃き寄せられし散紅葉  
何にはさて手足伸ばして柚子湯かな  
無人島長平唄ぶ破れ芭蕉  
炭焼きの山から山へ転校す  
南天の実の鮮やかなるすの門  
もてなしの方言温し雪の宿  
就活がうまく決まらずニートかな

◆ 句 会 ◆  
百までの柚子湯にひたるこの至福  
数え日や雲の行き来の早くなり  
粧ひを解きて素顔の山眠る  
ダムの里獵銃音の突然に

- 公文 春紀  
高橋 章  
北村 幸子  
西川 常夫

一番風呂鼻先に柚子弾ませて  
ラ・フランス信濃の空のほひかな  
宙に浮く心地となりて年の暮  
朝日待つ縁側に座し年惜む  
向き合いてビール分け合い年惜む  
祝ぎくるる米寿うからと年惜しむ

◆かがみ野俳句会◆  
蒼すぎる空あり授産所餅を搗く  
学舎の四囲の散歩や霜を踏む  
ランドセルゆらしつ走る霜の朝  
つる梅やたどる記憶の片片と  
味噌汁の具を取りに出る霜の朝  
高速道村置き去りに山眠る  
相対す会話の真中咳一つ  
夕茜日を吸ひつくし熟柿落つ  
吊り橋に揺れ合ふ絆紅葉谿

- 甲藤 卓雄  
野崎 典子  
小野川順子  
前田 芳子  
中内ゆかり  
竹内 ろ草  
佐竹 洋子  
佐藤 幸  
利根 弘子  
古川 信子  
小松 愛子  
中澤 美晴  
森本 健代  
山崎 鈴子  
吉田 芳  
乾 真紀子  
奥宮さとみ  
黒岩千英子  
小松 隆之  
小松 完  
小松 昇  
杉山 春萌  
野村 里史  
前田 欣一  
前田 智  
間崎 和代  
森本 之子  
山崎かずみ

## 吉井勇記念館だより

### 吉井勇顕彰短歌大会 井上佳香先生講演会

第11回吉井勇顕彰短歌大会表彰式の終了後に講演会を開催します。講師は今大会選者の井上佳香さんです。大会への作品投稿の有無にかかわらず、どなたでも参加できます。

※入場無料  
【日時】3月8日(土) 13時(表彰式開始)  
※講演会は14時開始予定

【場所】猪野々集会所(吉井勇記念館隣)  
【講師】井上佳香さん(「高知新聞歌壇」選者、「高知アララギ」選者)  
【送迎バス】香美市役所本庁舎前↓香美市役所香北支所前↓記念館 ※要予約  
行き 12時発(香美市役所香北支所前12時20分)  
帰り 15時40分発

### 季節の展示(春) 未発表・未収録の作品展

吉井勇の遺した作品の中には、旅先などで即興で詠まれたものや、雑誌にのみ掲載され、歌集・全集には収録されなかったものが多くあります。

【期間】2月26日(水)～5月26日(月)

### 吉井勇記念館 祝日の開館と振り替え休館日

通常毎週火曜日が休館日ですが、2月11日(火)は祝日のため通常通り開館しが休館となります。

問い合わせ先 吉井勇記念館 ☎58・2220

小春日の山家の縁に薫仕事  
コスモスの中待人の現はるる  
しぐるるや山寺を訪ふ人もなし

### 土佐山田町俳句会

出入り口残して柚子の皮の聯  
蒲団干す齡を重ねし吾がにほい  
殊更にひびく寒夜の掛時計  
少年は聖夜にひとつジャンプする  
庭木切り隣家近づく冬日かな  
裏山の松に呼称のありて冬  
手袋に老いたる手指隠しけり  
歳末や笑顔忘れたレジ娘  
我が影を連れて散歩の十二月  
夕鶴や紡ぎ上げたる物語  
冬至湯に木守の柚子も取って来る  
冬満月胸中に棲む啼鬼

### 今月のキラリ

もてなしの方言温し雪の宿  
行き暮れてたどり着いた宿で、思わず土地の言葉で迎えられた。そのときの感慨である。

### 俳句・短歌の投稿方法

▼投稿方法は自由。(ただし、ハガキで投稿の場合、一人一枚のハガキで5句(音)以内)  
▼住所・氏名・電話番号を明記してください。  
▼俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載月の前月の1日までに投稿してください。  
▼誌面の都合により掲載されない場合があります。なお、選者の添削を不要とする方は添削不要と記してください。

【投稿先】総務課内広報委員会事務局(俳句・短歌係) 782-8501(住所記載不要) FAX 53・5958